

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	都市建設部		
	課名	下水道課		
	係名	工務係		
	記入者		電話(内線)	665

1. 事業の概要		(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	下水浄化センター改築事業	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		① 事業の区分		⑥ 事業主体		市	
② 施策コード		26403 (総合計画掲載 ^ハ - ^ジ 91 ^ハ - ^ジ)		(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 普通建設事業費(ハード事業)	
基本目標(政策)		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)		会計区分		特別会計	
基本施策		2-6地球環境にやさしいまちづくり(環境保全・排水処理)		財源区分		国県補助	
施策		④生活排水の適正な処理		予算科目		款 1 項 2 目 1	
施策内容		3下水浄化センターの改築		予算書上の 事業名称		公共下水道建設事業費 (予算書 355 ^ハ - ^ジ に掲載)	
(5) 事業期間		開始	平成	年	月から	(8) 事務分類	
		終了		年	月まで (力年)	自治事務	
				根拠法令		下水道法	

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
下水浄化センター	浄化センターの計画的な施設設備更新による安定かつ適正な運転
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
汚水の適正処理の推進及び効率化のために、機械・施設の長寿命化改築更新を行う。併せて耐震化も実施。 ・最初・最終沈殿池設備改築更新工事及び電気改築更新工事 ・ポンプ井、スクリーン室、最初・最終沈殿池、耐震補強工事 ・耐震補強工事 ・長寿命化計画策定委託(第2期) ・実施設計委託 ・ストックマネジメント計画策定	平成18年に改築更新10力年計画を策定、その後平成23年に長寿命化計画を策定、補助事業として改築更新工事を実施している。(計画策定が補助要件)
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
昭和53年の供用開始から40年近く経過し、施設の老朽化が激しくなっている。	

3. 事業コスト			
行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額(千円)	当初予算額(千円)	計画額・見込額(千円)
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度 30 年度 31 年度
事業費 (1) 事務事業費	改築工事	210,000	
	改築設計		
	耐震工事	166,000	76,000
	耐震設計	17,280	
	計画策定	7,240	11,100
	合計	400,520	87,100
財源	国庫支出金(千円)	212,310	45,650
	県支出金(千円)	3,670	
	地方債(千円)	171,050	27,900
	その他特定財源(千円)		
	一般財源(千円)	13,490	13,550
	合計(千円)	400,520	87,100
補助・起債制度名	社会資本整備総合交付金・市町村下水道整備支援事業補助金・公共下水道事業債	社会資本整備総合交付金・市町村下水道整備支援事業補助金・公共下水道事業債	

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	更新設備	目標値		0	0	4	4
		実績(見込)値	箇所	2	0		
	耐震工事	目標値		4	0	1	1
		実績(見込)値	箇所	0	4		
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	汚水処理量	目標値	m ³ /日	12,950	13,450	13,950	14,450
		実績(見込)値		11,140			
		達成率		77.1 %	0.0 %		
		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

平成27年度繰越事業となったため、記載なし。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	施設の老朽化により、ますます必要性は高くなっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	下水道法第3条により、行政以外には実施出来ない事業である。
	手段の妥当性	A	妥当である	長寿命化計画及び耐震計画のスケジュールに基づき効率的に実施している。
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	
有効性	成果の向上	A	上がっている	概ね目標水準に達している。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	計画どおり、順調に進んでいる。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

下水浄化センターの老朽化に対応するため、長寿命化計画及び耐震事業計画に基づき計画的に設備の改築更新を進めることが出来た。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

長寿命化計画書及び耐震事業計画に基づき、財源の確保に努めながら、施設の状況を常に把握して、効率的に事業を進めていく。

また、今後は長寿命化計画をポンプ場、管渠も含めたストックマネジメント計画に移行する必要がある。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	下水浄化センターは、供用開始から36年が経過し、主要部分の老朽化や機器等の劣化が進んでいる。今後も公共用水域の水質保全を図るため、処理機能を維持することは必要不可欠であり、専門性に優れている日本下水道事業団を活用することにより、コスト削減・成果向上を図るとともに、計画的な事業継続が必要である。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。